

スポーツとしてのスケートボードに関する一考察：スニーカーの変遷に着目して
A Study on Skateboarding as a Sport:Focusing on the Transition of Sneakers

1K06B251-4

指導教員

主査：石井 昌幸

和田 光太

副査：間野 義之

【目的】

現在スケーターという人々は世間一般からあまり良いイメージを抱かれていない、ともすると不良と同じように考えられているように感じるが、スケーター自身からするとスケートボードはスポーツ以外の何物でもない。スケートボードというものの自由さやスケーターの精神性からなのか、実感としてスケーターに対して世間一般のマイナスイメージやステレオタイプが存在する。

こうしたイメージは、どこから来て、なぜいまだに残っているのでしょうか。おそらく、スケートボードに対する理解が足りないことが原因のひとつなのではないだろうか。しかし、スケートボードに関する研究自体は少なく、あっても活動場所に関する研究あるいは動作解析を主としたものがほとんどでスケートボードを文化とみなした研究はこれまでにない。

そこで本研究では、スケートボードをスポーツとして見ることで、それに対する理解を深め、「スケートボード=スポーツ」という図式を再認識すると共に、スケートボードのおかれている現状を打破する可能性を示し、そのためのきっかけとなることを目的とする。

【方法】

まずスケートボードをより深く知るため歴史を辿り、それ自体がどのように発展してきたのかを調べるだけでなく、その時々世間のスケートボードに対する反応、当時のスケーターの特徴、主たる活動場所を文献などから読み解いていくことで、スケートボードの現状の根底にあるものを探る。

次に「スケートボード=スポーツ」の根拠を得るためにスニーカーという媒体を用いて、この媒体が他のさまざまな文化や現象とどのように関わっているかを検証し、そこから、スポーツと他の事柄との関係性に違いを見出す。

最後にスケートボードとスニーカーの関係に注目し、相互にどのような影響を与えているのかを見ていきそれまでに挙げた事例と比較することによって、他のものとスニーカーとの関係、スポーツとスニーカーとの関係、スケートボードとスニーカーとの関係それぞれの違いと共通点を見出すことで「スケートボード=スポーツ」の図式の正当性を示していく。

【結果と考察】

スケートボードというものは、学術的にはもちろんスポーツである。しかしその発生から現在に至るまでの変遷を辿っていくと、スケートボードに取り込まれてきた人々やその自由性ゆえに立派なスポーツとしては見なされたことがなかったことがわかった。

一方現在でも若者文化としても確固たる地位を築いているスニーカーは、その発生から現在に至るまでの進化においてスポーツと強く結びついてきた。発生から何年かはスポーツシューズという考え方が強かったが、その後ファッションアイテムとして若者たちの間で確固たる地位を築き、現在でも若者文化として認知されているスニーカーはスポーツ以外の音楽や風俗などの文化や現象とも幅広く関係し、互いに普及させたり、流行を生んだりしてきたという記述も多く存在した。しかしその中から抽出できたスポーツと他の文化のスニーカーにおける決定的な違いは、新たなスニ-

カーのジャンルの発生あるいは技術的進化を促したかどうかであることが分かった。

以上のことを受けてスケートボードとスニーカーの関係を検証した結果、他の文化同様に互いの普及に影響を与えることももちろんだが、スケートシューズという新たなジャンルを生み出し、メジャースポーツブランドから独自のラインを登場させ、日々進化を遂げていることが明らかとなった。

「スケートボード=スポーツ」という図式の正当性を強めることができたと考えているが、いろいろなことを調べていく中で、スケートボードの最大の良さは服装、場所、年齢など全ての点で自由なことであり、この図式の確立によるスケートボードという競技の体制化を私自身も含めスケーターたちは望んでいないということを感じた。スケートボードのすばらしさを知ってもらい、スケーターの社会的地位が少しでも上がることを望む一方で、今のままアンダーグラウンドなものとして存在していく方がスケートボードの本質を保持できるかもしれないという葛藤が生まれた。

さまざまな考えに至ったが、結果としてスニーカーというものがスケートボードの過去を支え、そのスポーツとしての将来を開く鍵となることは間違いない。